

## ジェコスの環境対応技術・工法

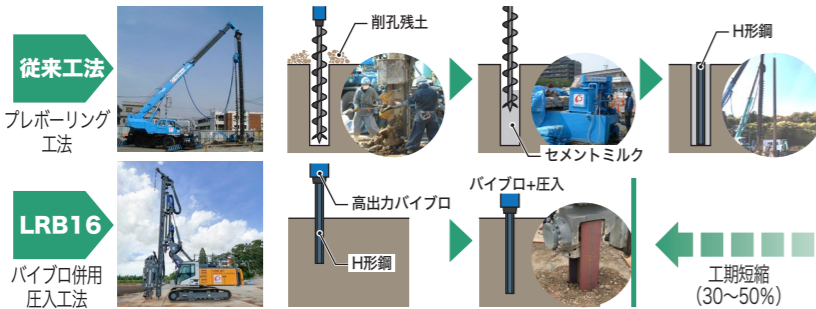
**工期短縮** **使用機材削減** NETIS登録技術：KT-140078-VR、第18回（平成28年度）国土技術開発賞受賞  
**Ecoラム®工法** 座屈性能の高いコラム材（角形鋼管）を用い、中間杭の本数を削減し作業空間を確保する事により、安全性、躯体品質、施工性が向上します。



### GHG削減のポイント

中間杭の打設工事を削減、部材の接合方法も簡略化し工期を短縮。  
 鋼材使用量と重機稼働や輸送に関わる燃料を削減できるため、GHG排出削減につながります。

**工期短縮** **セメントレス** **残土レス**  
**LRB16** 伸縮型リーダーを用いた油圧式圧入と、高周波油圧可変式パイプロを併用した高性能な杭打機を使う工法です。



### GHG削減のポイント

パイプロ併用圧入工法により、従来のプレボーリング工法に対して削孔・根固めが不要。残土が発生せず、セメントも使用しません。施工ステップ簡略化により工期も短縮します。

**工期短縮** **使用機材削減** **セメントレス** **残土レス** 大臣認定番号：TACP-0681 TACP-0682  
**T-Wingパイル回転杭** 小径鋼管に4枚のらせん翼がついた杭を回転させて圧入します。翼の抵抗により中間層で所定の支持力が確保でき杭長を短くできる工法です。



### GHG削減のポイント

杭の短尺化により工期も短縮。鋼材と燃料の使用量を大幅に削減できます。  
 また、回転圧入工法のため根固め液が不要でセメントも使用しません。

**工期短縮** **使用機材削減**  
**H形鋼橋梁GHB®** 支間長10~25mの中小橋梁の新設および架け替えニーズに対応する、大型圧延H形鋼を採用した軽量&シンプルな構造の本設橋梁です。維持管理や現場施工性にすぐれ、低桁高化も図っています。



### GHG削減のポイント

PC橋に比べ上部工の軽量化が図れるため、架け替え時に既設下部工の増強や更新が不要で再利用できるため、建設コスト削減と環境負荷低減が図れます。  
 また、設計が標準化されており、運搬・架設も容易なため、工期短縮に貢献します。

**ジェコス株式会社**  
 GECOSS

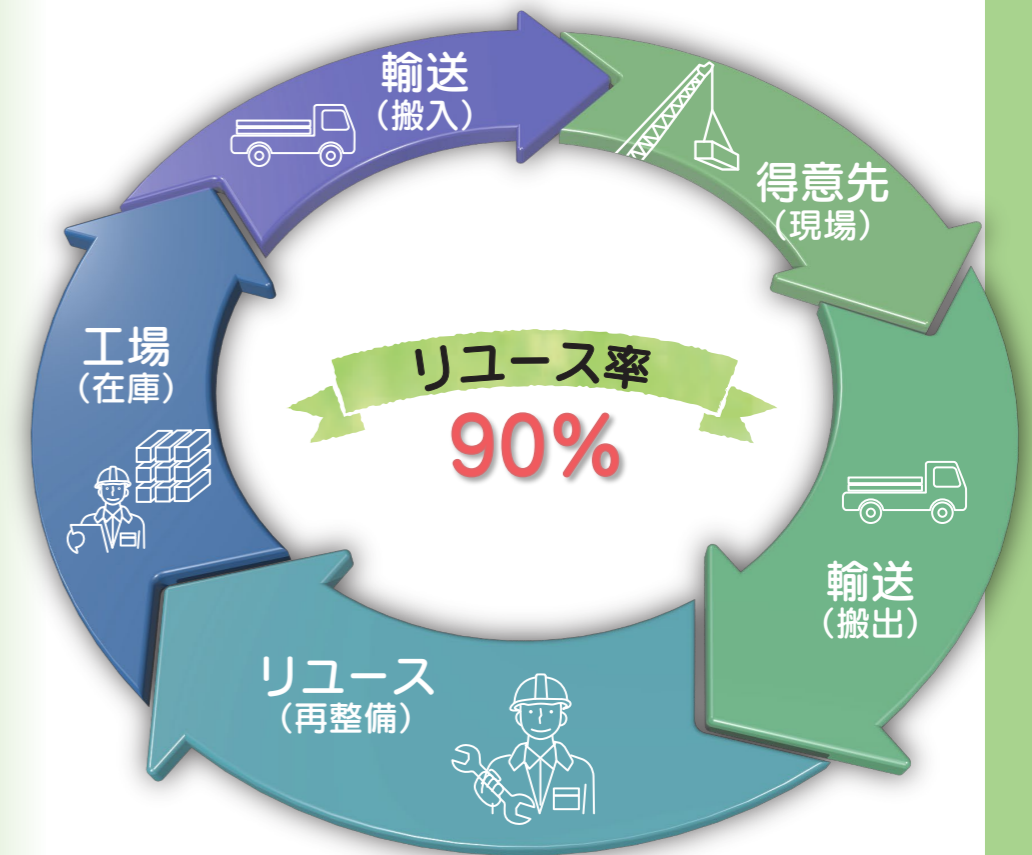
本社 〒112-0004 東京都文京区後楽2-5-1 (住友不動産飯田橋ファーストビル) TEL 03-6699-7401 (代表) FAX 03-6699-7437



2024.04\_0500JA



## カーボンニュートラル実現に向けた取り組み



**ジェコス株式会社**

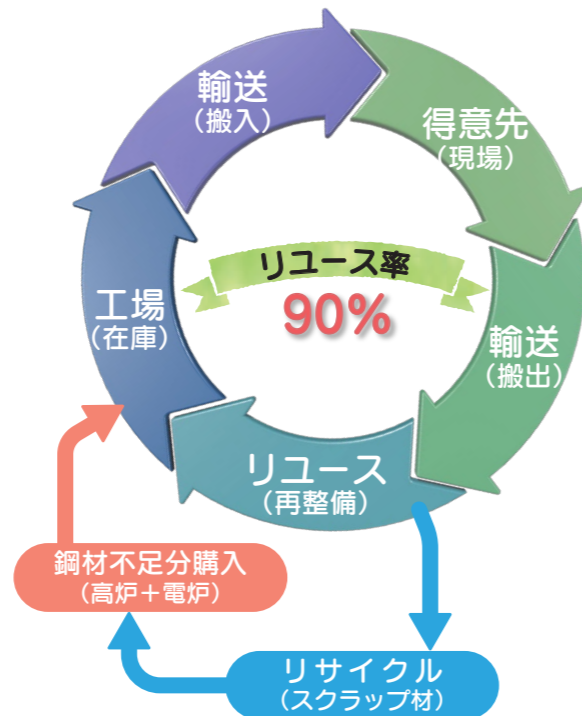
# ジェコスグループは、脱炭素社会の実現に向けて、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出削減に取り組み、2050年のカーボンニュートラルを目指します

## ジェコスの事業モデル

重仮設事業での鋼材リユース率は90%、環境にやさしい循環型の事業モデルです。

重仮設事業ではお客様から発注を受けると、工場に保有する材料（鋼材）を建設現場に運搬します。鋼材は現場で使用された後、工場に返却。整備されてまた次の現場で再使用（リユース）されます。

変形などで再使用が難しい鋼材は、スクラップ材として再生使用（リサイクル）しており、リサイクルした鋼材を不足分として補充し、またサイクルを回していきます。



## サステナビリティ課題への取り組みの基本方針

2022年6月策定

1. 鋼材のリユースを中心とした事業モデルを常に進展させ、資源循環型経済の実現に取り組む
2. サプライチェーン全体の温室効果ガスの排出削減に取り組む
3. 災害復旧に貢献するとともに、防災、減災、国土強靱化の実現に取り組む
4. 関係するすべての人の人権を尊重するとともに、その安全と健康の確保に取り組む
5. 従業員の働きがいの向上と、多様な人材の活躍の場の提供に取り組む
6. 社会との協調を図り、積極的に社会貢献活動に取り組む

## TCFD提言に賛同

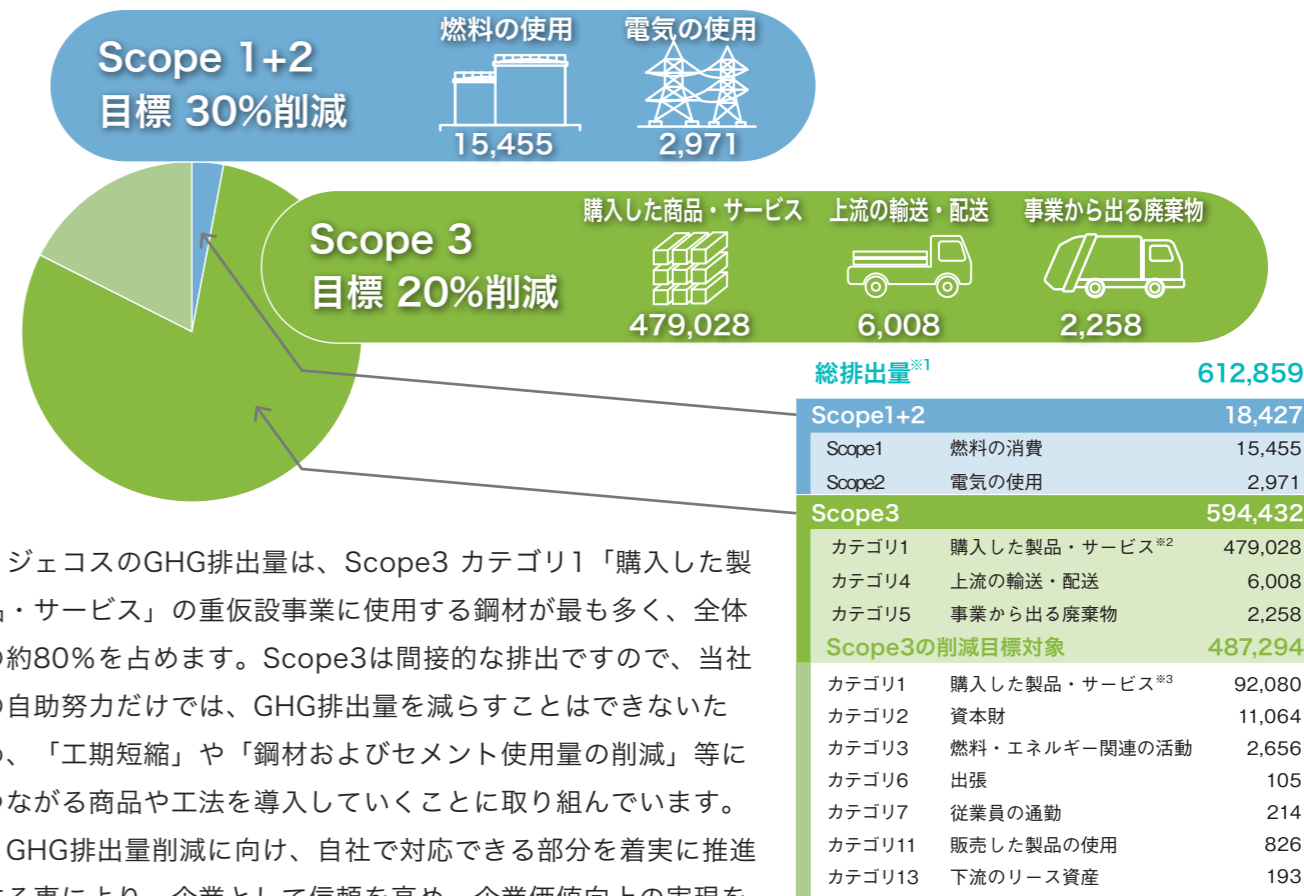
2023年4月賛同表明

ジェコスグループは、2023年度中のTCFD提言に沿った情報開示の実施に伴い、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に賛同を表明しました。



2023年4月 排出量削減目標公表  
2024年3月 TCFDに沿った情報開示

## 温室効果ガス 2021年度排出実績・2030年度削減目標



ジェコスのGHG排出量は、Scope3 カテゴリ1「購入した製品・サービス」の重仮設事業に使用する鋼材が最も多く、全体の約80%を占めます。Scope3は間接的な排出ですので、当社の自助努力だけでは、GHG排出量を減らすことはできないため、「工期短縮」や「鋼材およびセメント使用量の削減」等につながる商品や工法を導入していくことに取り組んでいます。

GHG排出量削減に向け、自社で対応できる部分を着実に推進する事により、企業として信頼を高め、企業価値向上の実現を目指します。

※1 算定対象は単体  
※2 算定対象は高炉鋼材、電炉鋼材、セメント  
※3 算定対象は高炉鋼材、電炉鋼材、セメント以外  
※4 カテゴリ8、9、10、12、14、15は算定対象外

## 2050年カーボンニュートラルへ向けて

### 技術開発の推進

工期短縮工法の導入  
鋼材レス・セメントレス・産廃レス工法の導入  
AI導入、アルミ台車等による輸送効率向上

### 低炭素型資機材の戦略的調達

バイオ燃料等の低炭素燃料の使用  
環境負荷の少ない鋼材の調達  
革新的機械の使用

### 省・創・再エネへのシフト

事業所・工場のLED照明化  
工場への太陽光発電設備導入  
系統電力から再エネ電力100%使用へ

## 脱炭素に向けたロードマップ

		2030	2040	2050
Scope1：燃料	革新的機械	積極導入	導入拡大	標準化
	低炭素型燃料の使用	積極導入	導入拡大	標準化
Scope2：電力	電力シフト	省エネ	創エネ・再エネ100%へ	
Scope3	低炭素型資機材	積極導入	導入拡大	標準化
	輸送効率向上	AI等による最適配車と積載率向上		
Scope1・2・3	技術開発	省力化・省資源化に寄与する技術開発		

カーボンニュートラル達成